



## プレスリリース

**世界エイズデー2021 – エイズ終結と不平等の終止符、もうパンデミックを起こさないというさらに大胆な目標に向けて、さらに進んでいこう。**

*何百万もの人の命が奪われようとしている中で、UNAIDS と WHO は世界エイズデーの特別イベントを開催し、サセックス公ハリー王子をはじめとする世界のパートナーが、治療と保健医療技術へのアクセス拡大と人権の擁護が緊急に求められていることを訴えました。*

**ジュネーブ 2021 年 12 月 1 日** – 2021 年世界エイズデーに際し、国連合同エイズ計画（UNAIDS）、世界保健機関（WHO）およびそのパートナーはスイスのジュネーブで特別イベントを開催し、エイズの世界的流行をはじめパンデミックの拡大要因となる社会、経済、文化、法律面での不平等に終止符を打つ行動を緊急にとる必要があることを強調しました。

「これは緊急警告です。エイズの世界的大流行を引き起こす不平等を終わらせるために直ちに行動しなければ、パンデミックの克服は望めません」と UNAIDS のウィニー・ビヤニマ事務局長は述べています。「世界の指導者が協力してこの課題に真正面から取り組まなければなりません。言葉と行動を一致させる勇気を持つことを強く求めます。1 分ごとにエイズで貴重な命が失われていく。こんなことは許されません。時間を無駄にしている余裕はないのです」

2020 年時点では、2030 年までのエイズ終結という世界共通の約束は実現の軌道を大きく外れています。2020 年現在の世界の HIV 陽性者数は 3770 万人、年間の新規 HIV 感染者数は 150 万人、エイズ関連の死者数は 68 万人でした。HIV 感染の約 65%は、セックスワーカーとその客、ゲイ男性など男性とセックスをする男性、注射薬物使用者、トランスジェンダーの人たちといったキーポピュレーション、およびその性パートナーの人たちで占められています。

「COVID-19 パンデミックが発生する前から、HIV 感染の最も高いリスクにさらされている人たちの多くは、HIV の検査・予防・ケアのサービスを受けられずにいました」と WHO のテドロス・アダノム・ゲブレイエス事務局長は語っています。「COVID-19 パンデミックは事態を悪化させ、不可欠な医療サービスが崩壊し、HIV 陽性者の COVID-19 に対する脆弱性が増えています。COVID-19 と同様、エイズの流行に対しても、終結に導くために必要なツールはすべてあります。世界エイズデーに際し、不平等を狭めること、HIV 感染を防ぎ、命を救い、エイズの流行を終わらせるためにすべてのツールを活用することをすべての国に呼びかけます」

世界が差別や不平等の解消に取り組まなければ、今後 10 年間のエイズ関連の死者は 770 万人に達するおそれがある。UNAIDS と WHO はこう警告しています。

イベントでは、[サセックス公ハリー王子とビヤニマ事務局長の力強いナレーションによるビデオ](#)が上映され、HIV 治療へのアクセスと COVID-19 ワクチンへのアクセスに対する不穏な共通性が示されました。1997 年から 2006 年の間に、HIV の影響を最も大きく受けている低・中所得国の多くで、価格が高いために抗レトロウイルス薬を手に入れることができず、推定 1200 万人がエイズ関連の病気で亡くなっています。生命を救うことができる HIV 薬を利用できない人は今日でもなお、世界中で約 1000 万人もいるのです。サセックス公は、エイズの歴史から学び、COVID-19 ワクチンへの不公平なアクセスを克服すること、すべての人が最新の HIV 薬と技術を利用できるようにすることを世界に促しました。

[WHO と UNAIDS に宛てた手紙](#)も読み上げられました。サセックス公はそこでエイズの 40 年を振り返り、これまでに成し遂げられた成果に感謝の意を表しています。そして、HIV から学んだ教訓を生かし、COVID-19 ワクチンの確保においても、公平性を保つ必要があることを強調しました。

講演を行った人たちは、HIV が若者に与える影響を強調しています。「若者、とりわけキーポピュレーションの若者は、引き続きスティグマにさらされ、不平等が私たちの生活を脅かしています」と、HIV 陽性の若者の世界ネットワークを代表してジョイス・オウマが語っています。

「若者は国の未来であり、世界のエイズ対策の要です」とタイのアヌティン・チャーンピラクル副首相兼公衆衛生大臣は述べています。「あらゆる種類のスティグマをなくすよう世界は迅速に行動しなければなりません」

イベントでは、参加者がパンデミック開始以来エイズで亡くなった 3600 万人の人を追悼し、HIV に最も影響を受けている人たちの支援にもっと力を入れる必要が緊急にあることを強調しました。

UNAIDS プログラム調整理事会の議長を務めるナミビアのジュリア・イメネ・チャンドウル大使は「エイズは依然として緊急事態であり、COVID-19 対策の中でも忘れてはなりません」と述べています。

講演を行った人たちは、すべての国、パートナー、市民社会に対し、エイズに関する 2021 年の国連総会ハイレベル会合で採択された政治宣言、および世界エイズ戦略 2021-2026『不平等に終止符を、そしてエイズ終結を』でなされた約束を大胆に推進するよう求めました。どちらもその核となるのは不平等の解消です。

「不平等に終止符を打つことを重視した UNAIDS 戦略は大切です」とフランスのステファニー・セイドゥー大使（グローバルヘルス担当）は述べています。「パンデミックとの闘いを前進させ、すべての人の健康を確保することにつながります」

「私たちはエイズに打ち勝ち、パンデミックを克服する方法を知っています」とビヤニマ事務局長は付け加えました。「進歩を妨げている不平等に対処し、政策を進めていくことは可能です。ただし、それには指導者が勇気をもって取り組まなければなりません」

## **UNAIDS**

The Joint United Nations Programme on HIV/AIDS (UNAIDS) leads and inspires the world to achieve its shared vision of zero new HIV infections, zero discrimination and zero AIDS-related deaths. UNAIDS unites the efforts of 11 UN organizations—UNHCR, UNICEF, WFP, UNDP, UNFPA, UNODC, UN Women, ILO, UNESCO, WHO and the World Bank—and works closely with global and national partners towards ending the AIDS epidemic by 2030 as part of the Sustainable Development Goals. Learn more at [unaids.org](https://unaids.org) and connect with us on Facebook, Twitter, Instagram and YouTube.